



▼付属農場



▲足尾国国有林見学(森林A)

▲有機農業農家訪問(農環工C)

1年生の実習 (2018年度の例)

実習 I	生態 A	自然観察フィールドワーク	1コース 選択
	森林 A	森林のしくみ	
	農環工 A	これからの農業農村振興のあり方を考えよう	
	共生 A	山里暮らしを考える～「遠山物語」の世界	
実習 II	農場実習	さつまいも定植、乳牛管理、果樹管理	2コース 選択
	生態 B	中山間地域の野生動物管理の現場見学	
	生態 C	雑木林の植物調査と管理	
	森林 B	里山管理フィールドワーク	
	森林 C	森林の今を記録する	
	森林 D	山村を知る	
	農環工 B	水・土を通して農業基盤について学ぼう	
	農環工 C	三富(さんとめ)・循環型農業のルーツを辿る	
	共生 B	裁判所の役割を考える	
	共生 C	里山保全運動からまちのあり方を考える	
	共生 D	限界集落から学ぶこと	
	共生 E	動物園の機能	
共生 F	地域博物館の役割		

取得可能な資格

- ◆ 測量士補 ◆ 中学校教諭1種免許(理科)
- ◆ 高等学校教諭(理科、農業) ◆ 樹木医補
- ◆ 博物館学芸員 ◆ 自然再生士補 ◆ 森林情報士2級
- ◆ 自然活動体験リーダー など



4月 拡大オリエンテーション
新入生を温かく歓迎するイベント。「インディアカ」というスポーツ大会も!



7月 プログラム説明会
各プログラムの内容を詳細に2年生に説明します。



8月 学科説明会
オープンキャンパスで高校生に学科の魅力のアピールします。



1月 卒業研究発表会
4年間の成果を発表します。



3月 学科卒業証書授与式
晴れて卒業する先輩をみんなでお祝いしましょう。



松澤 優樹
(2015年度卒)

国立研究開発法人土木研究所
現在は、国立研究開発法人土木研究所で、研究成果の戦略的な普及を行う部署に勤務しています。地シスでは、様々なフィールドでの実習や調査等を通して、都市や農村における生態系と人間活動のつながりについて理解が深まりました。大学院に進学した後は、海外での調査や国際会議等に参加する機会があり、研究面でも生活面でも視野が広がり、異分野の研究者や技術者との交流にも役立っています。



松下 絢子
(2017年度卒)

王子マネジメントオフィス株式会社
製紙メーカーの人事部で、新卒採用や労務費管理に携わっています。地シスの卒業研究で行政の職員や狩猟者に聞き取り調査を行った経験が、今の人事の仕事に活かしていると思います。また、新卒採用で学生に自社に関する説明に熱が入っています。



萩原 ななみ
(2016年度卒)

長野県総務部税務課税務電算係
現在所属している部署では、都道府県税に関する、個人情報の登録、税金の計算、通知書などの作成をする「税務電算システム」の管理をしています。大学在学中は市街地における自転車走行の危険度に関する研究に携わり、その研究を通して地域社会に関わる職に興味を持ち、現在の職場へ就職することを決めました。研究活動を自主的に進めることや、自主的な学習などの経験が、現在積極的に仕事をする事への糧となっています。



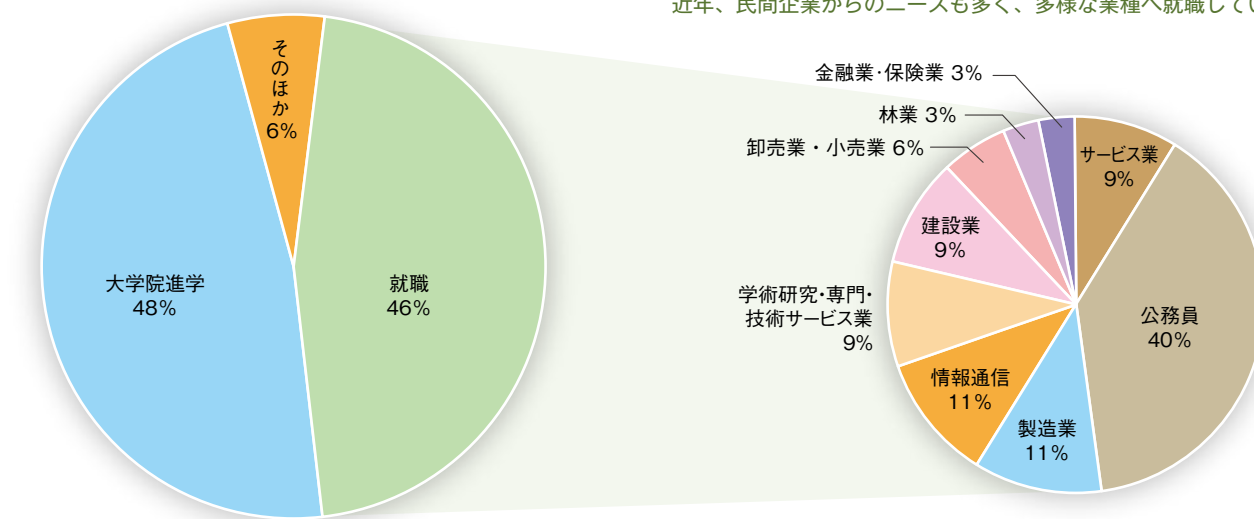
小山 裕美
(2015年度卒)

株式会社四門補償部業務二課
グーグルマップを多用して土地の評価をしたり、ときにはドローンで写真測量をしたりといった仕事をしています。様々な都道府県の、林地や畑地や宅地などの調査をするので、地シスで養われたフットワークと現場好きの血が騒ぎます。

卒業生の進路と就職先

社会に羽ばたく地シスのOB・OG

進学・就職状況 (2017年度) 卒業生の約半数は大学院に進学します
就職先としては、公務員が多く、国家・地方を合わせると約40%に
近年、民間企業からのニーズも多く、多様な業種へ就職しています



国立大学法人 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

<https://www.tuat.ac.jp/department/agriculture/region>
<http://web.tuat.ac.jp/~region/index.html> (学科独自サイト)

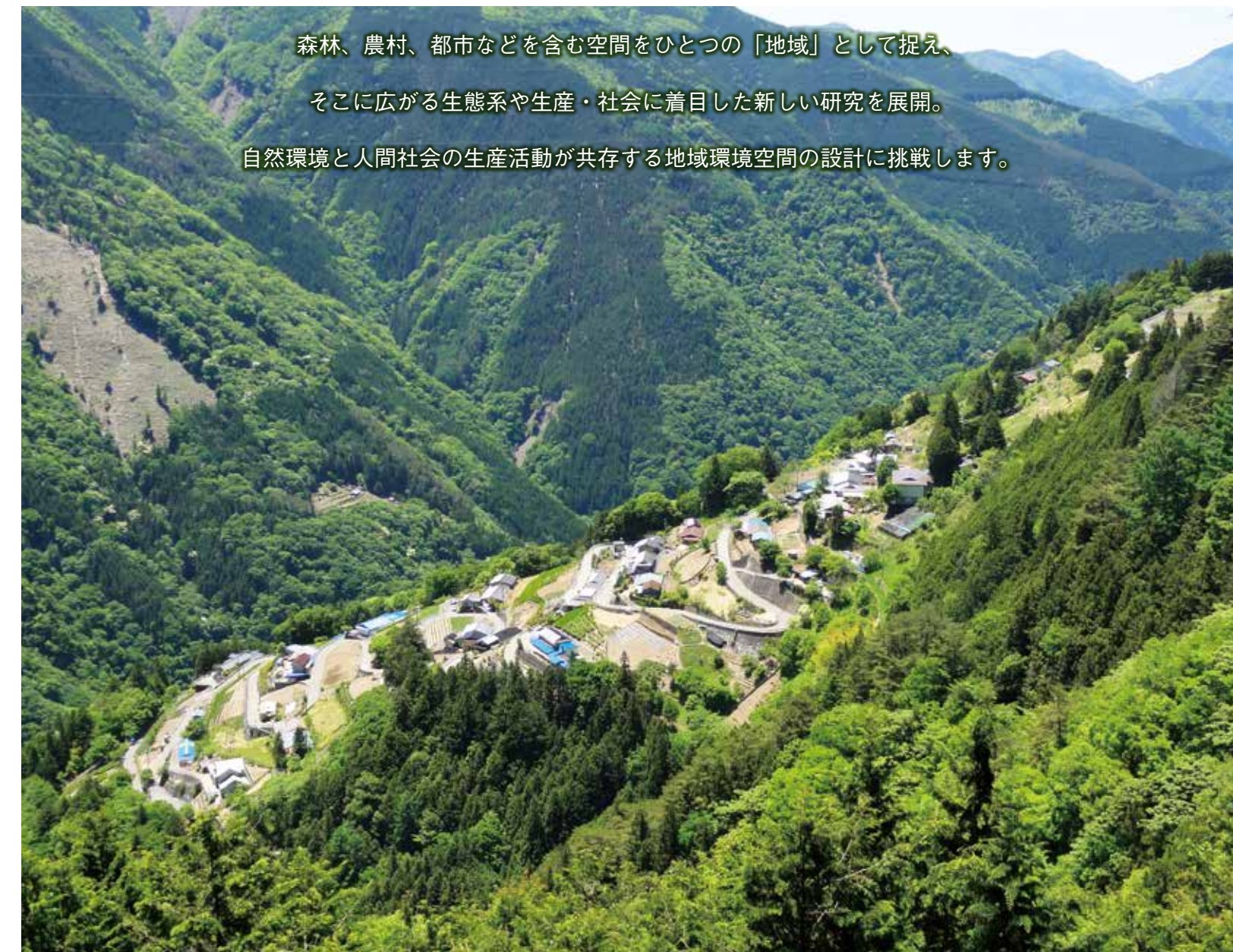


地域生態システム学科

Department of Ecoregion Science

人と自然の共生

森林、農村、都市などを含む空間をひとつの「地域」として捉え、そこに広がる生態系や生産・社会に着目した新しい研究を展開。
自然環境と人間社会の生産活動が共存する地域環境空間の設計に挑戦します。



▲長野県飯田市下栗「天空の里」

【学びのキーワード】 地域資源、生態系、持続可能性、野生動物、都市緑地
森林、農村、田園、流域、計画・管理、人と自然の共生



地域生態システム学科では、パッケージ・プログラム制というカリキュラムを採用しています。

「パッケージ」とは、関係の深い講義科目と実験・実習・演習科目をまとめたものです。このパッケージを組み合わせ一貫した専門カリキュラムにしたものが「プログラム」です。

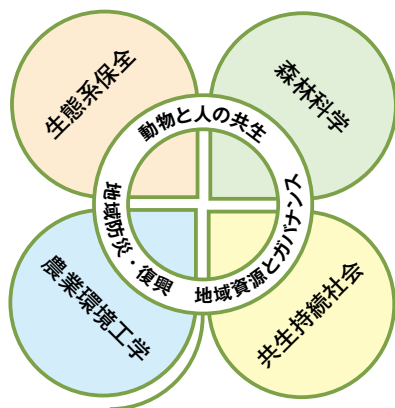
「プログラム」はその完成に必須なパッケージ群と、学習の理解を広げる推奨科目群で構成され、大学院の学問分野や教育体系につながる4つの「主プログラム」と、複数の学問分野にまたがる複合的課題を地域の視点から考える「副プログラム」があります。

指定された要件を満たすと、そのプログラムを終了したと認められ、本学科の卒業と同時にプログラム修了認定証が授与されます。

パッケージ・プログラム制



主プログラムと副プログラム



生態系を含む地域資源の保全・管理・活用などさまざまな問題を解決する社会の在り方を考え、野生動物や自然植生、森林・緑地・農地、農林業や農山村文化の新しい役割、人間と自然の調和を地域から地球のスケールで考えることを目的としています。

広い視野で、実際のフィールドに立って問題を研究し、ボトムアップ型の思考でその解決を計ることのできる人材の育成を目指します。

グローバル (global+local) 地球規模で考え、地域で行動する



生態系保全プログラム



自然生態系の保全と管理に関わる諸問題の現場解決能力(情報収集、解析、デザイン)を養うと同時に、自然環境保全、野生動物管理を実践する専門家を養成するための教育を行います。

森林科学プログラム



森林と森林環境の創造および設計ができる森林・林業の知識と技術を修得し、森林をとりまく諸問題の現場解決能力(情報収集、解析、デザイン)を養うと同時に、森林を様々な側面から理解できる豊かな人間性と国際感覚を養成するための教育を行います。

農業環境工学プログラム



都市・農村における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図る地域環境整備、及び生産性向上と環境保全を同時に解決する持続的食料生産システム構築を担う農業環境工学の専門家を養成するための教育を行います。

共生持続社会プログラム



地域の社会・経済・文化・歴史に関する人文社会科学的な調査・分析の能力を身につけると同時に、人と自然、人と人の共生についてビジョンを描く豊かな思考力と想像力を養成するための教育を行います。

副プログラム 総合的な課題に取り組みます

人と動物の共生プログラム

野生動物の保護管理、飼育動物など人の生活圏の中にある動物との関係性の再認識等を通じて、動物と人の共生社会の実現を担う人材の育成を目指します。

地域防災・復興プログラム

災害に強く、被災後に社会機能の回復が速やかに進む地域構築のために、自然科学および社会科学の素養をもち、幅広い視野と実行力をもつ人材の育成を目指します。

地域資源とガバナンスプログラム

地域の持つ歴史的・文化的・生態的特性を認識し、ガバナンスの各過程を主導的に担う人材の育成を目指します。

ピックアップ研究室

3年後期から選択した指導教員のもとで卒業研究

植生管理学研究室

星野義延 教授、吉川正人 准教授

森林から草原や湿原までさまざまな植物群落を対象に、その種類構成や立地環境(地形、土壌、人間活動との関わりなど)から群落の成り立ちを調べ、緑の保護・保全につなげるための研究を行っています。



▲戦場ヶ原湿原の調査



▲植生管理学習の調査風景



▲富士山のブナ林

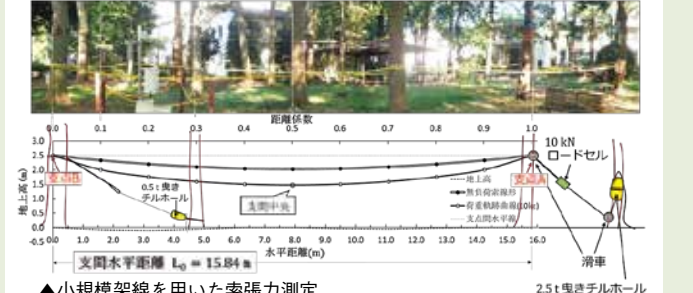
森林利用システム学研究室

岩岡正博 准教授、松本武 講師

森林環境に調和した森林資源の持続的利用・管理技術の確立を目指し、主に工学的技術開発、森林の機能評価、影響予測(アセスメント)のアプローチから、さらにこれらを有機的に結び付けるシステム学の観点から研究を進めています。



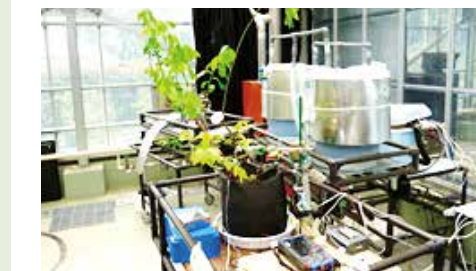
▲立木のヤング率の測定 | ▲小型ストローク式ハーベスタの生産性調査



生産環境制御学研究室

帖佐直 准教授

農業生産環境におけるセンシング・計測やデータ収集技術に関して、実用技術の開発と基礎研究の両方の視点をもって、農産物の品質管理、流通、環境、エネルギーなどの課題にも幅広く対応できるような研究を目指します



▲センサネットワーク



▲小型農業ロボット

環境文化史研究室

高橋美貴 教授

「農学部には歴史や文化を扱う研究室が?」と思われるかもしれませんが、文化遺産がたくさん生まれていることから、歴史や文化もまた地域の社会と人びと、さらに地域の農を支えるものになりえます。学生さんが選ぶ研究テーマは多様ですが、皆さん熱心にフィールドワークや資料に基づいた実証研究を進めています。



▲歴史資料調査の実習



▲震災被災地巡見

▲ゼミ合宿で報告中